

NIPPOが、ゴムチップの衝撃吸収層を備えるウレタン系弾性舗装

「ウレタンパーソフト」

シリーズの拡販に力を入れている。公園の遊具周りの安全対策や、病院・高齢者施設の転倒事故対策としてニーズの拡大が見込まれるのに対応。シリーズ全体で年間3万平方㍍以上の施工を目指す。

## ゴムチップウレタン舗装拡販

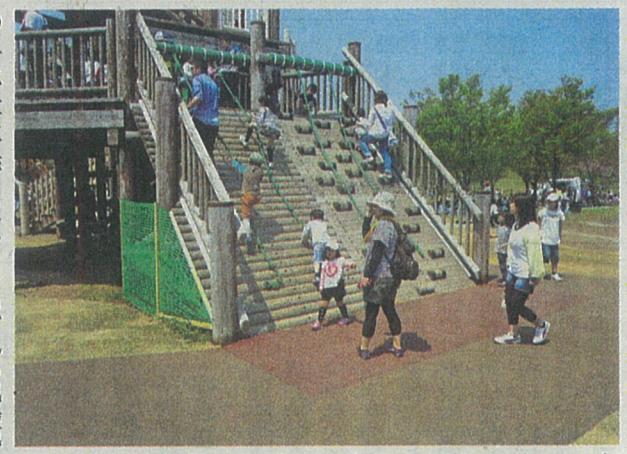
NIPPO

陸地方整備局が発注した国営越後丘陵公園（新潟県長岡市）の整備工事でウレタンパーソフトセーフティとウレタンパーソフトGPSをそれぞれ10平方㍍、870平方㍍の計880平方㍍施工した。

セーフティは、改良アスファルトコンクリート

年3万m<sup>2</sup>以上  
施工目標

## 遊具周り、高齢者施設の安全対策



こりんじょうの登り口。カラーはセーフティをレッド、周囲のGPSをベージュにした

の上に、再生黒ゴムチップの衝撃吸収層を敷設。その上に高強度ウレタンパーソフトと呼ぶ耐候性のある特殊なカラーゴムチップを使った層を構築する。表層は引っ張りに強く、色落ちや変色がにくい。透水性があるので水たまりができず、滑りにくいのも特徴だ。GPSは、改良アスコンに耐候性カラーゴムチップのウレタンパーソフトを敷設する。

同公園のセーフティは衝撃吸収層30㍉、高強度ウレタンパーソフト10㍉の計40㍉の厚さ、GPSのウレタンパーソフトは厚さ10㍉とした。セーフティは、26種類の木製遊具の中で高さのある「ころんじょう」と呼ぶ人が、気遊具の登り口に採用。GPSは各遊具の通路に指す。

ゴムチップウレタン舗装拡販

日刊建設工業新聞  
平成25年6月20日掲載